

柏崎市新庁舎建設基本設計業務 公募型プロポーザル審査報告書

平成28年7月

柏崎市新庁舎建設設計者選定委員会

1 審査経過

(1) 公告（平成28年4月5日）

設計者選定に当たっては、柏崎市新庁舎建設基本設計業務公募型プロポーザル実施要領（案）等を、平成28年3月28日に開催した第1回柏崎市新庁舎建設設計者選定委員会（以下「選定委員会」という。）において審議・決定し、これを4月5日に公告した。

(2) 第一次審査（平成28年6月4日）

参加資格及び参加条件を満たした参加表明者13者から提出された技術提案書について、業務実施方針や課題に対する提案内容を1案ずつ確認し、意見交換を行った。評価基準に基づき、事務所や技術者の経験・実績等も含めて、総合的に審査を行い、第一次審査通過者5者を選定した。

なお、第一次審査においては、提案者名を伏せて、整理番号にて審査を行った。

(3) 第二次審査（平成28年6月19日）

第一次審査で選定した5者によるプレゼンテーション及び選定委員によるヒアリングを公開で実施した。ヒアリング終了後、技術提案の内容について意見交換を行い、評価基準に基づき、総合的に審査を行い、最優秀者及び優秀者を全会一致で選定した。

2 審査結果

最優秀者 株式会社佐藤総合計画

優秀者 香山壽夫建築研究所・石本建築事務所 設計共同体

3 審査講評

(1) 総評

各者の技術提案からは、柏崎市の理解に努め、柏崎市新庁舎建設基本計画をよく読み込んでいることが伝わり、いずれも意欲の感じられるものだった。

審査においては、①市民にとって分かりやすく利用しやすい庁舎、②中心市街地活性化の核となる庁舎、③高い防災機能を備えた庁舎、④簡素で機能的な庁舎という4つの課題について、提案の的確性、創造性、実現性等の点から評価を行い、担当チームの対応、実行力等合わせて評価を行った。

選定委員会では、初めに各委員がヒアリングを通じた全体の印象と、重視したい点について意見を述べ合い、評価の観点について共通理解を図った。その中で、課題に対する提案内容に関連して、市民サービスの点で1階の業務機能・交流空間の配置と案内、駅前ゾーンの賑わい創出の点で敷地内だけでなく道路を挟んで向かい合う5街区を含めた考え方、アルフォーレと一体になった交流・市民活動空間の創出、災害対策本部の機能性、冬季の風雪等に対するアプ

ローチやメンテナンスへの配慮、事業費や維持管理コストの妥当性、設計プロセスへの市民参加の具体性、中心市街地への波及効果等が評価の視点とされた。

各案について意見を交わし、意見が出尽くしたと了解しあったところで、各委員は各評価項目に対する点数を確定し、その集計結果を基に所定の手順に従って選定を行い、全会一致で決定した。

(2) 選評

ア 株式会社佐藤総合計画：最優秀者

駅に向かって大きな庇空間を設け、開放的なエントランス空間により市民を迎え入れる構えをもち、それが5街区側に回り込んで、想定する施設群と一体となって駅前に賑わいを生み出そうとしている。庁舎部分を4階に抑え、面積を縮小する提案がなされコスト縮減が強く意識されている。1階の「雁木ひろば」と名付けられ、内装に木を生かした市民ロビーは、周囲に配された諸室と合わせ、様々な活動を生み出す場となることが期待され、市民参加の取り組みと生かし方についても様々なアイデアが示されている。以上、建築計画とまちづくりを一体的、総合的に捉えた提案として高く評価される。

なお面積や階数の縮小の実現性、市民ロビーについて来庁者が少ない時の活気や居心地よさ、2階との連続性等について、今後の検討が期待される。

イ 香山・石本設計共同体：優秀者

煉瓦積みの格調高い外観により、永く愛される庁舎を目指すとともに、総合的な環境性能の向上、アルフォーレとの一体感を生み出そうとしている。コンパクトな形態をとりながら、1階に「柏崎フォーラム」と名付けた市民広場と執務スペースを集約し、2・3階にもテラスやラウンジを設けるなど、市民の居場所を確保している。一方、駅からの人々の迎え入れ方は、特に冬季の風雪に対して無防備で、エントランスが窮屈である。また、5街区と一体になったまちづくりの提案が不十分で、市民の巻き込み方について一般的な記述に止まっているのが残念である。

(以下、整理番号順に記載)

ウ 整理番号：8

1階に設けた様々な市民サービス機能を「まち縁」と呼ぶ屋外と一体となる空間で結び、様々な人の景を生み出そうとする提案がなされているところは魅力が感じられる。5街区と合わせた駅前の活性化、アルフォーレとの関係等についての提案性が弱く、敷地内に限定した提案に止まっている。屋根の重なり等の形状には、気候風土、維持管理、事業費等の点で疑問が残った。

エ 整理番号： 9

1階に庁舎執務棟と「とおしにわ」と呼ぶ市民広場を設けて、波打つ大屋根で覆い、執務棟をコンパクトにまとめている。おおらかさが魅力であるが、ややスケールオーバーで執務棟と屋根との関係、市民広場のまとまり感等に疑問がある。祭りの賑わい時の表現は魅力的だが、人の少ない時の居心地の良さが課題である。市民を運営主体とする「こねくとセンター」の提案、メンテナンス等、きめ細かい提案がなされている。

オ 整理番号： 12

「ヒュー・プラット」と名付けた2層吹抜けのトップライトにより明るく開放的な市民広場は、一段床を上げて落ち着いた居場所とするアイデアと共に魅力が感じられる。一方、周囲が駐車場で囲まれ、特に南道路側の駐車場は、折角の市民広場との連続性を生かせず、5街区と一体となった賑わいづくりの点でも疑問である。市民の参画について提案がやや弱く、市民広場の運営について、守衛が管理するという回答は残念だった。

平成28年7月15日

柏崎市新庁舎建設設計者選定委員会

委員長	長澤	悟
副委員長	小林	正美
委員	今井	晴彦
委員	長	聡子
委員	中出	文平
委員	山田	哲治